

もっと知りたい民生委員のこと おしえて 猪上会長!



平成29年に100周年の節目の年を迎えた『民生委員制度』。
大正6年に岡山県で発足した、貧困者の相談や就職のあっせんなどを行う『済世顧問制度』を始まりとしています。
地域で活動する民生委員さんとは、一体何をされていてどんな存在なのでしょう?
安芸高田市民生委員児童委員協議会 猪上優彦会長に教えていただきました。

プロフィール

県外で公務員を退職後、故郷の安芸高田市に帰郷。当時の自治会長と市の担当者からの依頼を受け、「少しでも地域のお手伝いになれば」と民生委員を引き受けた。2期目で吉田地区民生委員児童委員協議会の会長に。3期目で市の同協議会会長、4期目で県の同協議会会長に就任。全国民生委員児童委員連合会の理事も務める傍ら、現在も吉田地区の民生委員として活動中。

Q・民生委員をひとことと言つと?
猪上 簡単に言うと、各地域に存在する民生委員は、そこに暮らす人たちの困りごとを聞いて行政や関係機関に繋ぐ架け橋の役割をしています。対象は赤ちゃんから高齢者まで。「通院や買い物不便になった」「将来が不安」など小さな悩みから大きな悩みまで、何でも気軽に相談できる存在です。また、児童委員も兼ねており、子ども、子育ての応援的存在でもあります。

Q・どんな活動をしていますか?
猪上 地区ごとに児童の見守り、あいさつ運動や一人住まいの高齢者へ手作り弁当の配布、サロン・清掃活動など様々な活動を行っています。中でも、私が最も大切だと考えているのは、担当する地域の実態を把握することです。一人住まいの高齢者宅への訪問や悩みごとを抱えている人からの相談を受けながら、誰がどんなことで悩みを抱えているかを受けとめる必要があると思います。

Q・悩みを打ち明けてもらうのは簡単なことではありませんよね?
猪上 気軽に相談してもらうためには、やはり人間関係を築いていく必要があると思います。何でも話せる関係を作るには相当の時間を要します。

そのためには、民生委員を長く続けたいですね。民生委員は1期3年ですが、6割の人が1、2期で退任されています。これは安芸高田市だけでなく、広島県や全国でも同じ傾向です。

Q・民生委員さんに長く続けてもらうことが、地域で活動するための第一歩ですね。

猪上 1期目の民生委員はまだ顔や名前を地域の人に知られていません。回覧板などでもお知らせしますが、それだけではなかなか周知できません。1期目はまず、顔と名前を覚えてもらうことが最初の活動になるでしょう。顔も知らない人に、なかなか相談もしにくいですね。

Q・市民のみなさんに望むことはありますか?

猪上 まず、ご自身の地域担当の民生委員を知ってほしいと思います。あなたの地域にも必ずいます。そして何か困ったことがあったら遠慮せず相談してください。民生委員には守秘義務が課せられているため、その内容を決して口外することはありません。

Q・次の100年に向けてこれからの目標や夢を教えてください。

猪上 先ほども話しましたが、長く活



動してくれる民生委員を増やしていくこと。そのためには、民生委員の精神的な負担を軽減していくことを考えていかなければなりません。孤独死や虐待など、深刻な事例もありますが、一人で抱え込まず、横の繋がりを強くしていくことが大切です。民生委員の先輩には5期、6期と続けてこられた方もたくさんいます。30年間活動をしている方もいます。民生委員同士もサポートし合えるような体制づくりを行っていきたいですね。そして、これからさらに一人住まいの高齢者や高齢世帯は増えていきます。民生委員が活動することで、そこに暮らす人が「いざという時には目をかけてくれる人がいる」「相談できる人がいる」と安心して暮らせるまちづくりに貢献したいです。

各地域協議会の 会長から一言

美土里地区

佐々木昌荘会長



平成5年から高齢者施設「高美園」で月に1度、洗濯たみを実施しています。年末には外壁のすす払いや門松の設置もしているんですよ。これからも民生委員としての活動に力を注いでいくことはもちろん、社会福祉協議会や地域のボランティアの方とも連携しながら、幅広く見守り活動を展開していきたいと思っています。

八千代地区

沖本由利子会長



地域住民の方の相談にのるほか、75歳以上の高齢者に手作りのお弁当を届けたり、幼稚園や保育園の訪問、土師ダムの清掃など、毎月様々な活動をしています。八千代地区の民生委員は15名。その中の9人は一昨年の12月に誕生したフレッシュな面々です。今年は1年間経験を積んだ新人民生委員さんの活躍にも期待しています。

向原地区

迫能典会長



民生委員で最も大切なのは、住民との信頼関係を築くこと。そのためには長く委員を続けてもらう必要があります。しかし、トラブルなどに遭遇し、一人で悩んでしまう委員も少なくありません。向原地区では民生委員の困りごとに対応する『ガイドライン』の作成を検討しています。委員を続けやすい環境を整えるための取り組みです。

甲田地区

丸中盛久会長



民生委員制度が始まった100年前に比べ、暮らしや環境の変化は目覚ましいものがあります。それに合わせて、私たちが関わる制度や仕組みも変わってきました。民生委員は、これらの制度を上手く活用した活動が必要となり、そのためにより一層、委員間の情報交換が大切と思われます。今年を101年目のリスタート元年と位置づけてこれからも尽力します。

高宮地区

中田實男会長



高宮は担当するエリアがとにかく広い。民生委員も他の地域のことまでは把握できていないのが現状です。今後の目標は、民生委員同士が情報を共有すること。今年1月の豪雪の際には、倒木が道路をふさぎ、孤立した民家もありました。こうした災害時に地域全体でサポートできるような新しい仕組みを構築していく必要があると考えています。